

信条（の一部）

一、天照大御神は宇宙間で最も尊貴で最高位の神であり、

天皇は大御神の直系の子孫にして地上ではその地位に相当します。

二、親から生まれ出る瞬間に人には誰でも直霊が宿ります。

直霊の正体は天照大御神の小さな分霊で、人は小さな神となります。

よって、敬神尊皇は人の道の大本にして道德の根底にあります。

三、人は下等動物が偶然進化したのではなく、小さな神であるとの自覚が必要です。

しかし、人霊と尊貴な神とでは天地ほどの差があり慢心は禁物です。

自分が小さな神なら、隣の人も小さな神です。小さな神として恥ずかし

くない行動をとりましょう。

四、人は死後、生前の功罪等にもより、縁の出来た神霊界に入り、

個人の人格と不死の霊胎（肉体の如きもの）を持ち永遠の生活を営み

ます。神霊界は高下千差万別ですが、上 etc 等な界では苦痛なく、

魔界に堕ちれば永遠に苦痛があります。

しかし、子孫が功德を積み祖先の生活にも改善の可能性があります。

五、他人にけなされても自分の眞の価値には影響無し、動ずること勿れ。

煽てられても、自分の眞の価値には影響無し、慢心すること勿れ。

六、神の道は、軽んずれば軽くなり、重んじれば重くなるものです。

信念の軽重に見合うだけの神通が得られます。